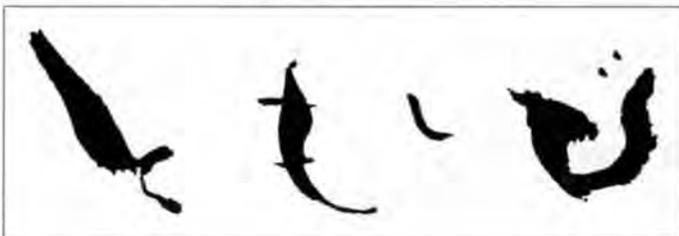


大学女性協会東京支部



女子学生亡国論から半世紀



東京支部長 小澤 紀子

- ・新支部長挨拶
- ・東京支部総会報告
- ・『東京支部国際奨学金』開始

初めまして。今年度から支部長を引き受けることになりました。実はJAUWを運営する流れに馴れておりません。しかしこれまでご苦労した支部委員が本来任期切れであるにもかかわらず残留して支えてくださったことを了解してくれました。ありがとうございました。

ここではJAUWの現況を簡単に述べ、次に活動活発化につなぎたい思いで私見を申し上げます。

法人改革の波を受けてJAUWは一般法人格の認可を受けるべく準備が進められております。特に意図するのは公益性ある活動を増やすことです。東京支部では2009年度に奨学金を新設し、開発途上国内に住む女性が高等教育を受けて自立することを支援する事業を始めました。

このような会の活動を支えるのは会費収入と会員の力です。東京支部会員数は4月現在353名、2年前から50名減となりました。会員が減るのは、会員の高齢化によりますが、加えて会員の価値観が多様化したからではないでしょうか。

JAUWの第一目的は女性の高等教育推進と謳われ、全国セミナーでは性差による役割分担の廃止が高く掲げられています。半世紀前に女性の大学進学抑制の常識が壊れ、それに対する男社会の無理解がぶつかって冒頭の亡国論が堂々と雑誌に掲載されました。その頃は大学院生や職業婦人、あるいは心ならずも習慣に従って主婦であった人には女性団体が進んで性差があるとはいえません。

時代が進んで、女性の就職が当たり前になると、次は昇進に加えて家庭内での役割分担が問題となりました。法律を改正しても社会人・家庭人の感覚が変わるものではありません。JAUWは女性団体であつても、理想的な社会を築くために男性との意見の交換ができる場が必要ではないかと思う次第です。

ご意見と委員参加を歓迎します。自由に討論しましょう。

事業報告・予定

- 4・10 東京支部総会
記念講演「王朝私家集を讀む」
講師 後藤祥子氏
- 5・8 JAUW第53回通常総会
於・静岡
- 6・1 講演会「古典能と新作用における能管の役割と可能性」
(国内奨学委員会と共催)
講師 安納真理子氏
- 6・5 守田科学研究奨励賞贈呈式
- 7・25 東京支部会報「ともしび」第48号発行
- 10・30 シンポジウム
テーマ「改めて問う、「国際社会と連携するNGO活動」とは」
於・女性と仕事の未来館
講演会(詳細は未定)
- 12・ 新春のつどい・国内奨学金贈呈式
- 3・25 東京支部会報「ともしび」第49号発行
- 3・ 第10回自然科学講演会(科学研究奨励委員会と共催)

以後の事業は追ってお知らせします。

2009年度 (社)大学女性協会東京支部決算報告書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(4)会費収入				
支部会費収入	1,035,000	968,000	-67,000	345口
(5)事業収入				
シンポジウム・講演会・講座収入	30,000	14,750	-15,250	講演会会費 等
その他の行事参加費収入				
(6)受託事業収入				
(7)総会参加費収入				
支部総会参加費収入				
(8)寄付金収入	140,000	186,400	46,400	個人 サークル 等
(9)補助金等収入				
00雑収入				
受取利息収入	6,000	1,808	-4,192	
その他雑収入	100,000	100,000	0	バザー
01他会計からの繰入金収入				
本部会計からの繰入金収入	25,000	26,000	1,000	入会金・賛助会員還付金
事業活動収入計	1,336,000	1,296,958	-39,042	
2 事業活動支出				
(1)事業費支出				
シンポジウム・講演会・講座費用支出	330,000	310,440	-19,560	総会・講演会の会場費 講師謝礼 等
その他奨学金・諸経費支出				
分担金・国際関係支出				
NGO・その他分担金支出				
支部活動費支出	40,000	26,737	-13,263	委員会費 調査研究費
広報活動費支出	160,000	185,220	25,220	ともしび発行(年2回)
寄付金支出	50,000	50,000	0	UNHCR協会へ寄付(3万円) 東京支部国際奨学金(2万円)
その他の事業活動支出				
周年記念事業支出				
印刷製本費支出	10,000	7,350	-2,650	
通信運搬費支出	180,000	153,625	-26,375	事業に要する通信費
消耗品費支出	50,000	31,379	-18,621	事業に要する封筒 ラベル用紙 コピー代 等
図書・資料費支出				
雑支出				
(2)管理費支出				
会議費支出				
支部総会費支出	80,000	27,852	-52,148	総会案内のハガキ 総会茶菓子 等
旅費交通費支出	30,000	29,700	-300	発送手伝いの交通費補助
通信運搬費支出				
什器備品費支出	10,000	0	-10,000	テープ ゴム印 等
消耗品費支出	10,000	865	-9,135	委員会用資料コピー代 等
印刷製本費支出	10,000	7,575	-2,425	香典 登記簿取得費
雑支出				
(3)他会計への繰入金支出				
本部会計への繰入金支出	650,000	650,000	0	支部分担金(55万円) 国内奨学金(10万円)
事業活動支出計	1,610,000	1,480,743	-129,257	
事業活動収支差額	-274,000	-183,785	90,215	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
(3)支部事業活動準備金取崩収入				
投資活動収入計				
2 投資活動支出				
(3)支部事業活動準備金取得支出				
投資活動支出計				
投資活動収支差額				
IV 予備費支出	10,000	0	-10,000	
当期収支差額	-284,000	-183,785	100,215	
前期繰越収支差額	740,796	740,796	0	
次期繰越収支差額	456,796	557,011	100,215	

事業準備金状況: 普通預金 ¥3,860,000 中央三井信託銀行新宿西口支店
 運用金状況: 繰越金 ¥557,011 普通預金 ¥370,517 三菱東京UFJ銀行 四谷支店
 現金 ¥186,494

会計 浜田和子 翁川佳子

厳正に監査致しました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明致します。

2010年4月7日 会計監査 佐々木澄子
 会計監査 三浦由紀子

2010年度 (社)大学女性協会東京支部 収支予算書(正味財産増減計算書)

(2010年4月1日～2011年3月31日)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				その他事業会計				支部計
	セミナー等	奨学金	国際交流・ 支援	小計	広報活動	会員活動	支部総会	小計	
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1)経常収益									
支部会費	190,000			190,000	180,000	370,000	70,000	620,000	810,000
シンポジウム・講演会・ 講座事業収益	10,000			10,000				0	10,000
支部総会事業収益									
その他の行事参加費									
受託事業									
補助金収益									
受取寄付金	30,000		50,000	80,000				0	80,000
受取利息	2,000			2,000				0	2,000
その他収益		100,000		100,000				0	100,000
本部会計からの繰入金収入	25,000			25,000				0	25,000
経常収益計	257,000	100,000	50,000	407,000	180,000	370,000	70,000	620,000	1,027,000
(2)経常費用									
事業費									
奨学金		100,000	20,000	120,000				0	120,000
給料手当	80,000			80,000		220,000		220,000	300,000
臨時雇賃金									
会費	20,000			20,000		10,000	10,000	20,000	40,000
会場費	110,000			110,000				0	110,000
旅費交通費				0		50,000		50,000	50,000
通信運搬費	80,000			80,000		10,000	30,000	40,000	120,000
減価償却費									
消耗什器備品費				0		10,000		10,000	10,000
消耗品費	120,000			120,000		90,000	20,000	110,000	230,000
修繕費									
印刷製本費				0	180,000	25,000	10,000	215,000	215,000
光熱水料費	20,000			20,000				0	20,000
賃貸料									
諸謝金	200,000			200,000				0	200,000
支払負担金									
支払助成金									
支払寄付金			30,000	30,000				0	30,000
委託費									
調査研究費	10,000			10,000				0	10,000
諸会費									
図書・資料購入費									
雑費				0		10,000		10,000	10,000
経常費用計	640,000	100,000	50,000	790,000	180,000	425,000	70,000	675,000	1,465,000
当期経常増減額									- 438,000
2. 経常外増減の部									
当期一般正味財産増減額									- 438,000
一般正味財産期首残高									4,417,011
一般正味財産期末残高									3,979,011
Ⅲ 正味財産期末残高									3,979,011

分担金48万円は、給料手当(30万円)、消耗品費(16万円)、光熱水料費(2万円)に入れました。それをセミナー等と会員活動に分けました。

〈東京支部総会報告〉

書記 今村 麻子

東京支部総会は2010年4月10日(日)、津田ホール内会議室で開催された。

支部正会員数353名中、出席者数52名、有効委任状提出者数110名、計162名で総会は成立した。

森川支部長の4年間の支部長任期を支援してくださった会員の方々の感謝と通常総会への出席要請、東京支部国際奨学金設立報告、東京支部委員会への協力支援要請の挨拶に続き議事に入った。2009年度事業報告、決算報告、及び会計監査報告が承認され、次いで2010年度事業計画案、予算案が審議承認された。新支部長は欠席であったが、新支部長、新役員の承認、新委員の紹介後議事は終了した。

続いて房野会長によりニューヨーク滞在中に出席された会議の報告があった。東京支部会員の減少については、「去る者は追わず、魅力ある活動をして会員の増加をはかる」という前向きな姿勢を示された。来年、「国連の場でJAUW独自のワークショップを出そうではない

か」という提案もあり、総会は終了した。

記念講演は、日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長、後藤祥子氏の「王朝私家集を読む」という演題で行われた。20名を超える会員外の方々を含め、90余名の会場いっぱい参加者があり、さながら数十年前の学生時代の講義を思い起こさせる和やかな講演会であった。



〈東京支部総会記念講演会〉

(10・4・10)

「王朝私家集を読む」

講師 後藤 祥子氏

4月10日、東京支部総会に続いて後藤祥子氏の記念講演がありました。後藤氏は日本女子大学の学長・理事長を務められ、現在は日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長の要職についていらっしゃいます。専門は源氏物語等中古文学の第一人者ですが、お若い頃には当協会の学徒研究奨学金を受けられ、また理事もされたそうです。また当東京支部の会員でもあります。講演が始まる前からロビーは楽しみに待つ人でいっぱいになるほどでした。

演題「王朝私家集を読む」の私家集とは「石川啄木集」などとは違い、当時の貴族の子々孫々に伝える財産のようなもので、その暮らしぶり、中でも女性の生き方を垣間見ることができる貴重なものです。また女の私家集は、年代日時はあえてほかして書かれてはいるが、当時の人には容易に想像がつくような表現をしており、それが源氏物語の冒頭「いづれの御時にか」という書き出し



に結びついていること、そして、紫式部の創作ではあるがたいへんリアルティをもつて読まれる要因となつて

いるとのお話でした。

「伊勢大輔集」「和泉式部集」「相模集」などは、作者同士の交流を通して、創作を挑発したり、精神安定に役立ったり、自分が仕える女院に和歌を作ることと貢献する仕事振りの、恋愛や家族関係などがしのばれる興味深いものです。昔、和泉式部が、夫の任地に随行する「現地随行妻」であったことは、今の私たちの多くに共通するもので、時を隔てながらとても身近に感じられ、親しみの持てるものでした。

相模の「思女集」(恋に物思う女)、和泉式部「思女集」(恋に物思う女)、相模の「思女集」(恋に物思う女)と講演は続き、時間が経つのを忘れるうちに熱気あふれる会が終わりました。

(酒葉 美智子)

〔第53回通常総会報告〕

副支部長 芦澤 紗知子

今年度の全国総会は5月8日、9日、10日の見学会と3日間にわたり開催されました。開催地は雄大美景の富士山を間近に見る静岡でした。

右肩下がりの続く会員数の減少、一般社団法人への移行にもなう定款・会計処理の変更、任期満了の役員に代わる新理事及び監事の選出。今回はこの3議題が主だったっていました。

8日は臨時理事会、評議員会の後に支部長懇談会があり、新しくなった会計処理と各支部が共通で抱えている会員減少について活発な意見交換がありました。支部活性化のための具体的な提案もあり、各支部それぞれに参考になったようでした。夜の懇親会は、地元メニューのおいしい食事とともに静岡大学生25名によるガムランの演奏がありました。パリ島からの留学生を交えての本格的な音色を楽しみました。指導したのは静岡大学・小西潤子准教授で、大阪大学在学中にJAUWの国内奨学金を授与されたとのことでした。

9日の総会には、24支部から総出席者数171名（東京支部から47名



出席)。房野会長を議長に予定議事は進行され、第1号議案から第7号議案まですべて承認された。

れました（詳細は会報JAUWを参照）。懇談の部では、一般社団法人に向けての定款作成の素案が配布され、次回の総会での議案にしたいとの意向がありました。新役員も決定。新会長は青木怜子氏。

東京支部をはじめとし、全国の支部活動がすべて承認されました。午前の部の終わりに、静岡県文化観光部世界遺産推進課の望月俊和氏による公開講演会「世界遺産と富士山」があり、地域密着の演題で映像とともに親しめました。

会期中、オレンジ色のリボンを肩に活躍してくださった静岡支部の皆さま、心強く、頼もしかったです。

*総会出席者に資料として配布された新法人に向けての定款の素案をご覧になりたい方は、支部長までご連絡ください。

静岡支部主催見学会

(10・5・10)

バス旅行参加記

5月10日午前8時会員66名が2台のバスに分乗、「グリーンピア牧之原」に向け出発。茶畑の緑が見渡すかぎり続き、防霜扇がその中に立っている風景は目に鮮やかであった。牧の原大地の茶園は明治維新後生計を立てるため、土族や川越しの人足が開墾した地である。春の新茶の芽吹きは、たとえようのない美しい風景である。「グリーンピア牧之原」には茶の栽培から製茶まで一貫した設備がある。朝摘みの新茶をいただきながら

経営者から、茶の歴史、味わい方、淹れ方等を聞き、工場見学をした。その後法被姿に着替えて茶畑に入り茶摘みを体験、手摘みは「一芯二葉」といわれている。記念撮影後、お茶の数々の料理に舌鼓をうった。

臨濟寺は、今川義元が京都妙心寺から名僧を招き、賤機山に開山した臨濟宗妙心寺派の禅寺である。専門道場として各地より修行僧が来ている。正面山門は賤機山の鬱蒼と繁る大木に囲まれている。本堂（国の重要文化財）へは長い鬼階段を登る。これらの端正なすべての建物、その

前庭の玉砂利は雲水の修行と掃除によって枯淡の美が保たれている。

臨濟寺は2度戦火にあっている。1度目は信玄が再建（1572年）、2度目は家康が再建（1582年）した。それが今日の伽藍である（未公開）。庭園は賤機山の峯にかけ3段に築かれ、雄大であった。庭は池泉廻遊式、茶室は京都大徳寺南明亭の写し、炬は徳川慶喜公が愛用したものである。

徳川家康公（幼名竹千代）は今川家の人質として駿府にいた少年時代今川家の執権職であった太原雪齋の教えを受けた。12年の長きにわたり、書を習い、書史を読み、兵書を書く。徳川家平治300年の太平はここで培われたといわれている。

最後に静岡県庁別館の展望室に上がり、市街はもとより駿府城跡や駿河湾に続く山々を眺めることができ



た。

静岡支部の方々に心から感謝しつつ帰路にいった。

牧の原

一芯二葉の茶摘みかな

(坂井 英子)

〈東京支部講演会〉

(10・2・18)

「手続法上の子の最善の利益」

講師 若林 昌子氏

翻訳に携わったアメリカのフェミニズム法学者の著作に「子どもの最善の利益」という言葉が頻出するため、それを冠した先生のご講演をお聞きしたいと願っていました。今回、2度目の機会を得て、共訳者とともに早速申し込みました。「ともしび」に感想文を、というご依頼も、深く考えずお受けしたのですが、講演が始まってまもなく後悔することになりました。なぜなら、先生が言葉ひとつひとつをきちんと定義して使っていらつしやるのがわかり、門外漢には全体の内容の半分もきつと理解できないだろう、と知



らされたからです。正直に告白すると、これが感想のひとつめです。

とはいえ、法がシステムであることがよくわかりました。法は互いにつながり合った体系として整備され、社会のなかで一定の機能を果たす制度として意図されている、ということなのです。制度あるいは体系という訳をあてる英語のシステム、そのふたつの語義のつながりを感じました。

先生は、正義の理念を示す実体法、それを実施に移すための手続法、両者のどちらに不備があっても正しい裁きから漏れてしまう場合がある、それでは法の支配が確かなものとならず、社会の安心が達成できない、と訴えておられるようでした。後半では、子どもの監護権をめぐる具体的な審判の事例を交えながら、法が司る役割、あるいは法が及んでいない領域を示されました。法の整備がなつたとは言えない現状を認め、法のもつ役割をもっと積極的に捉えることが大切だ、と学ばせていただきました。

先生はじめ企画してくださった東京支部の方々には心より感謝いたします。

(神奈川支部 穂田 信子)

〈東京支部講演会〉

(10・6・1)

「古典能と新作能における能管の役割と可能性」

講師 安納 真理子氏

6月1日、古典能・新作能における能管について講演会が開かれた。

講師の安納真理子氏は、アメリカ国籍の日系2世、大学で化学(フルートを副専攻)を学ばれ、大学院ではフルートを専攻、能に出会われ能管の音にひかれて日本に留学、「新作能における音楽技法―能管を中心に」を修士論文にまとめられた。現在東京芸大大学院博士課程で音楽文化を専攻されている。2009年度国内奨学生である。



講演は、歴史から始まった。600年続く古典能は、室町時代に観阿弥、世阿弥父子により大成され、江戸時代まで猿楽と呼ばれていた。

た。明治維新により廃絶の危機に瀕したが、皇族や岩倉具視等の後援により現在に至っている。明治以降、時代を反映した新作能が生まれ300曲を超えるという。

続いて、能管について安納氏の演奏と映像を交えながら解説を聞く。能管は、竹製の横笛で歌口と指孔(7つ)があり、表面は桜樺・漆で覆われ、歌口と指孔の間の管の内に「ノド」と呼ぶ細竹が嵌めてあり、能管独特の高音を発し豊かで特徴のある表現ができる。囃子方の中でも登場人物の感情や情景を印象的に表わす。

「中の舞」「下端」の演奏は、会場に澄んだ音色が響いた。「敦盛」や「井筒」の映像では謡と舞、能管の調べを楽しんだ。

次に、詩人W・B・イエイツの演劇「鷹の井戸」に影響を受けた「鷹姫」「鷹の泉」「シアター能楽英語能鷹の井」を取り上げて、新作能の斬新な試みや他の演劇ジャンルとのコラボレーションについて解説があった。古典能の影響が強い一方で、古典能にない音型や技法が作曲家笛方により生み出されていると結ばれた。

能楽への関心を一層深めさせていただいた講演であった。

(穂田 眞紀子)

『東京支部国際奨学金』開始

東京支部では、昨年度、国際奨学金制度をスタートさせました。



第1回の奨学金は、ルワンダのウムリナ・ガク

バ・ディアネさんに決まりました。彼女は、スクール・オブ・ファイナンス・アンド・バンキング(SFB)の2部に在籍する24歳です。昼間は、ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクトで義肢装具士として働いています。彼女の職場は、日本女性のルダシングワ真美さんが代表を務める、ルワンダの義肢製作所で、障害を持つ人々を無償で支援しているNGOです。

彼女は、2008年度の神奈川県海外技術研修員制度の研修員に選ばれて来日し、1年間、横浜市で義肢装具士としての研修を受けています。その時の奮闘ぶりが朝日新聞でも紹介されています。

専門課程では、経済学を専攻し

て、ルワンダの経済発展に寄与できるように、勉学に励み、ゆくゆくは、経済学の勉強に日本に留学したいとの夢も抱いているそうです。

彼女の学費は、年額、日本円に換算して10万円かかっているそうです。それだけに東京支部からの奨学金2万円は、彼女にとって、価値のある本当に有難い支援だそうです。彼女の推薦者の、ルダシングワ真美さんにとっても、「涙が出るほど嬉しかった」という彼女の感謝ぶりは、想定外だったようです。

この報告を聞いて、この奨学金制度を創設した意義を身に沁みて感じた次第です。



SFBキャンパス

この制度で、発展途上国の高等教育機関で学ぶ女性を、持続的に支援していきたいと考えています。

(鈴川佳子)

東京支部国際奨学金 2010年度募集要項

- 目的:** この事業は日本以外的高等教育機関に在学する女性に対し奨学金を支給して学業に専念させ、母国における女性の地位向上に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- 応募条件:** 応募者は日本以外の国籍をもつ女性で、かつ、その国的高等教育機関に在学している者とする。
- 奨学金:** 一人当たり年額20,000円を上限とする。
- 支給期間:** 卒業するまでの正規在学期間とする。

★2010年度の応募締切は10月31日、支給開始は2011年1月より

問い合わせ先: 大学女性協会 東京支部国際奨学金係
TEL: 03-3358-2882 FAX: 03-3358-2889 E-mail: jauw@jauw.org
ご推薦やご紹介をお待ちしています!

〈第12回守田科学研究奨励賞贈呈式〉

(10・6・5)

贈呈式は6月5日にアルカデア市ヶ谷にて行われた。受賞者は大阪大学微生物病研究所助教の小根山千歳博士と富山大学理工学研究部准教授の小林かおり博士である。贈呈式に引き続き、受賞講演が行われた。

小根山博士の「Srcによるがん形質発現のメカニズム」と題する講演では、がん遺伝子Srcによるがん化シグナルにラフト(コレステロールに富んだ領域)が抑制的に作用するという新しい概念が示された。今後、ラフトの機能を利用した新たながんの予防や治療法の開発が期待される。小林博士の「新しい電波望遠鏡のためのマイクロ波データベースの構築」では、実験室で得られたマイクロ波分光のデータベース化により、電波望遠鏡で観測されたスペクトルの詳細な解析が可能となることが示された。さらに広範なデータベースの構築は、電波観測の進展を支えることになる。

講演後に開かれた祝賀パーティーでは、受賞者の恩師、関係者、会員諸師の約60人が受賞を祝福した。

(香取 浩子)

〈今年度からの新委員〉

どうぞよろしく。

4年間、国内NGO委員長として勉強させていただき楽しい日々でした。東京支部は特に大事な働きをしていると感じました。皆様といっしょに大学女性協会の発展を願い、微力ながら活動したいと思います。

(岡部 道子)

このたびはお仲間に加えていただきありがとうございます。先輩の方々の指導をいただきながら、私の出来る範囲でお手伝いさせていただきます。と思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(大川 薫代)

〈各係からのメッセージ〉

☆会員係

住所の変更は速やかにお知らせください。重要なお知らせや楽しい催し物のご案内が届きません。よろしくお願いします。会員数が減少してきます。お知り合いにお声をかけて仲間になつてもらいましょう。

(細貝 久美子)

☆講座・見学係 (バザー係を兼務)

会場に向いて直接お聞きしたいと思えるような演題と講演者、また一度行ってみたいとコメントいただけるような見学会の企画を目指したく思います。新メンバー6名で力を合わせてまいります。会員の方々、

ご友人のご参加をお待ちしています。

(野口 紀美子)

☆ともしび係

東京支部会報「ともしび」は、年2回発行を予定しています。会員一人ひとりの気持をつなぐ一助になれば、と願っております。新しい広がりや身近で楽しいことなど何でもお知らせください。

(酒業 美智子)

サークル紹介

★英語講座

- 第一・第三金曜日

午前十時～十二時

- 大久保地域センター3階

- 講師・松本節也元法政大学教授

- 「さし絵入り英国史」を講読中。

- 連絡先・宮下好子

(☎〇三三三四一―一三七五八)

★源氏物語を読む会 (I)

- 第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

- 宇治十帖「手習」を読んでいます。

- 連絡先・藤田典子

(☎〇四五八二―一四一八二)

★源氏物語を読む会 (II)

- 第三・四火曜日

午前十時半～十二時

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員
- 源氏物語関連の「伊勢物語」を読んでいます。

- 連絡先・中山律子

(☎〇三三三三三三六―四六二八)

★水墨画教室

- 第二木曜日 午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

- 講師・日高絹子(絹紅) 会員

- 初心者歓迎

- 若干名余裕があります。

- 連絡先・森川淳子

(☎〇四五八三―三四三〇)

★楽しい俳句会

- 三月末で終了しました。

- 住所等ご変更の場合は、事務所までお知らせください。

- 使用済みの切手を事務所までお送りください。

- 会費未納の方は、用紙の「振込みのご案内」を参照の上、どうぞお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

ネットでもホットな情報を！

キーワード「JAUW」で検索して、本部・支部主催イベントや奨学生募集など、今の話題を探ることができます。国際的活動情報を原文で欲しい方は支部長まで申し込んでください。

大学女性協会東京支部
2010年度役員・委員

- 支部長 小澤 紀子(安女九院)
- 副支部長 堀内 洋子(津)

- 書記 松岡 幸子(東女)
- 今村 麻子(東女)
- 早瀬 暢子(津・院)

- 会計 鈴木 佳子(奈女)
- 竹井香州子(津)

- 会員係 大川 薫代(津)
- 細貝久美子(茶)
- 村木 晴子(津)

- 講座・見学係 岩田 良子(日女)
- 岡部 道子(日女)
- 田辺 範子(茶)
- 玉澤 淑子(日女)

- ともしび係 野口紀美子(日女)
- 浜田 和子(東女)
- 芦澤紗知子(日女)
- 酒業美智子(神戸外)
- 佐々木澄子(東女)
- 森川 淳子(茶)

- 会計監査 森川 淳子(茶)

- 〇印 各係チーフ

〈編集後記〉

強力なサポートのもと、ともしび48号ができました。親切で当を得たアドバイス、素早い返信など、みなさまのご協力ありがとうございました。改めて大学女性協会、東京支部の実力を確信いたしました。

(S・A・O・H)